

アルビノ⇒遺伝子の異常によりメラニンを作れない。  
白変種⇒正常な遺伝子情報により体色が白い。

**全く異なる現象です！**

### ●アルビノ(Albino)

メラニンの生合成に係わる遺伝情報の欠損により、先天的にメラニンが欠乏する遺伝子疾患、およびその症状を伴う個体のことです。(皮膚は白く、瞳孔は毛細血管が透けて赤く見えます)



↑哺乳類  
アルビノのハツカネズミ



↑魚類  
アルビノのコリドラス

色素が全くないアルビノの個体は、皮膚や毛が白く、目は血管が透けて赤く見えるのが特徴です。アルビノは人間をはじめとして、ネズミ、ウサギ、ヘビなどの動物や植物にも広く見られています。

### ●白変種(白化個体; Leucism)

メラニン色素の産生能力は正常なので瞳孔は黒いですが、体色を白くする遺伝情報を持つため、色素が減少して白くなります。



← ホワイトタイガー  
インドに生息するベンガルトラの白変種です。かつてはインド北部や中東部に数頭いたといわれる白いトラも、トラ全体の数が減ってしまった今では飼育下でしか目にすることができません。全世界でも250頭あまり、国内には30頭ほどしかいない希少種です。

ホッキョクグマやシロイルカ(ベルーガ)など通常個体の体色が白い種類は、生息環境の影響から白変種が集団の中心となったものと考えられています。

# 白いイルカやクジラは珍しい？ ①

## MOBY DICK



Taber, Isaac W, 1899  
ニューベッドフォード捕鯨博物館

→ この全身白色のザトウクジラは「ミガルー」という愛称がつけられています。遺伝子の調査で、メラニン色素を作ることができないアルビノであることが分かっています。

1851年に出版されたハーマン・メルヴィルの長編小説『白鯨』に、全身が白い巨大なマッコウクジラ、モビー・ディックが出てきます。

実際に体が白いクジラやイルカが海で発見された例は多く、大型のヒゲクジラ類から小型のイルカ類まで約20種(下記リスト)で目撃があります。体が白い個体は、白変種(メラニン色素を持つため目は黒い)の可能性もありますが、海では目の色を確認することが難しいので、これらがアルビノか白変種かどうかはわかりません。

- 野生下で白い個体が確認された鯨種

シロナガスクジラ, ホッキョククジラ, ミナミセミクジラ, イワシクジラ, ナガスクジラ, ザトウクジラ, コククジラ, マッコウクジラ, ヒレナガゴンドウ, コシャチイルカ, マイルカ, タイセイヨウカマイルカ, カマイルカ, ハラジロカマイルカ, セミイルカ, シャチ, タイセイヨウマダライルカ, マダライルカ, ハシナガイルカ, シワハイルカ, バンドウイルカ, ネズミイルカ, イシイルカ

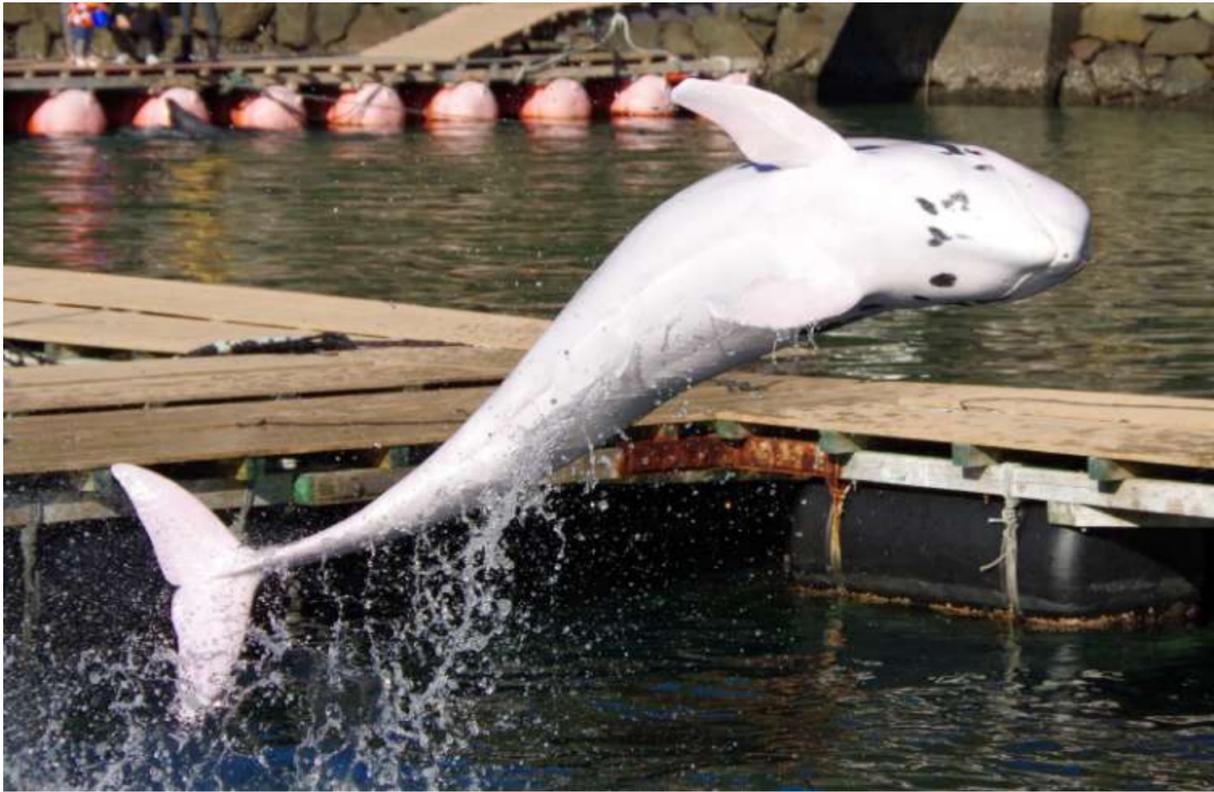


©David Paton, Blue Planet Marine

アルビノや白変種は体が白くて目立つため、外敵に見つかりやすく短命であると言われていています。しかし、オーストラリア沖では大人のアルビノのザトウクジラが毎年来遊することが知られています。

## 白いイルカやクジラは珍しい？ ②

アルビノのイルカを飼育した報告はバンドウイルカ(アメリカ)の1例しかなく、白変種ではシャチ(カナダ)とバンドウイルカ(アメリカ)の2例のみです。そのため現在、くじらの博物館で飼育しているアルビノのバンドウイルカ、白変種のハナゴンドウはとても貴重な例になります。



2014年11月23日搬入 ハナゴンドウの白変種



2014年1月18日搬入 バンドウイルカのアルビノ

陸上動物の白変種では、色素の量に個体差があることや、成長によって色素の量が変わり、体色が濃くなったり薄くなったりすること、通常の体色の個体が成長とともに真っ白になることなどが知られています。このような成長に伴う変化の記録は、毎日の観察が可能な飼育個体でしか得ることができず、鯨類ではまだ得られていない知見です。

これからも貴重な体色が白い鯨類の飼育を継続し、多角的な視点からの学術研究を通して、鯨類の多様な体色形成の仕組みなど、生態解明に役立つ科学的知見を集めていきます。

Taiji whale museum



2014年11月28日搬入 ハナゴンドウの白変種